

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日 2002年 9月10日
Date of Application:

Hirofumi WATANABE Q76895
DOOR-OPENING/CLOSING APPARATUS
Alan J. Kasper 202-293-7060
August 28, 2003

161

出願番号 特願2002-264719
Application Number:

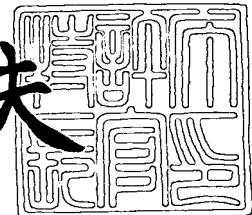
[ST. 10/C] : [JP2002-264719]

出願人 三井金属鉱業株式会社
Applicant(s):

2003年 8月 1日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 PMKA-14255
【提出日】 平成14年 9月10日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 B60J 5/10
E05F 15/10

【発明者】

【住所又は居所】 山梨県韮崎市大草町下条西割1200番地 三井金属鉱業株式会社 韮崎工場内

【氏名】 渡辺 寛文

【特許出願人】

【識別番号】 000006183
【氏名又は名称】 三井金属鉱業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100089118

【弁理士】

【氏名又は名称】 酒井 宏明

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 036711
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 0109108
【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ドア開閉装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 車体の開口部を開閉可能に設けたドアと、前記ドアが開放状態にある場合に閉塞方向に駆動する駆動手段とを備えたドア開閉装置において、ドアの移動を検出するドア移動検出手段と、

前記ドアの移動が閉塞操作されたものであるか否かを判定する判定手段とを備え、

前記ドア移動検出手段がドアの移動を検出し、前記判定手段がそのドアの移動を閉塞操作されたものであると判定した場合に駆動手段を稼動してドアを閉塞することを特徴とするドア開閉装置。

【請求項 2】 人間が触れたことを検出する接触検出手段をドアに備え、前記判定手段が、接触検出手段に入力があった場合に閉塞操作されたものであると判定することを特徴とする請求項 1 に記載のドア開閉装置。

【請求項 3】 前記接触検出手段は、静電スイッチであることを特徴とする請求項 2 に記載のドア開閉装置。

【請求項 4】 車体の振動を検出する振動センサを車体に備え、前記判定手段が、振動センサに入力がなかった場合に閉塞操作されたものであると判定することを特徴とする請求項 1 に記載のドア開閉装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ドア開閉装置に関し、特に自動車の開口部を閉塞操作するドアに適用するドア開閉装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来から、ドアの移動を検知する検知手段と、ドアを開閉操作する駆動手段とを備え、開放状態にあるドアをいずれかの方向にわずかに移動したことを検知すると、駆動手段を稼動してドアを移動させるドア開閉装置が知られている（たと

えば、特許文献1、特許文献2、特許文献3）。

【0003】

しかしながら、かかるドア開閉装置によれば、車体の振動によりドアが移動した場合であっても駆動手段を稼動してドアを移動させるので、たとえば、子供が飛び跳ねてドアが移動した場合であっても駆動手段を稼動してドアを移動させてしまう。かかるドアの移動は利用者の意図したものではないので、利用者に無用の混乱を生じせしめる。

【0004】

【特許文献1】

特開2001-132327号公報

【特許文献2】

特開平10-138762号公報

【特許文献3】

特開2001-277853号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、上記実情に鑑みて、利用者の意図した場合にのみドアを閉塞操作するドア開閉装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために本発明の請求項1に係るドア開閉装置は、車体の開口部を開閉可能に設けたドアと、前記ドアが開放状態にある場合に閉塞方向に駆動する駆動手段とを備えたドア開閉装置において、ドアの移動を検出するドア移動検出手段と、前記ドアの移動が閉塞操作されたものであるか否かを判定する判定手段とを備え、前記ドア移動検出手段がドアの移動を検出し、前記判定手段がそのドアの移動を閉塞操作されたものであると判定した場合にドアを閉塞することを特徴とする。

【0007】

また、本発明の請求項2に係るドア開閉装置は、上記請求項1において、人間

が触れたことを検出する接触検出手段をドアに備え、前記判定手段が、接触検出手段に入力があった場合に閉塞操作されたものであると判定することを特徴とする。

【0008】

また、本発明の請求項3に係るドア開閉装置は、上記請求項2において、前記接触検出手段が静電スイッチであることを特徴とする。

【0009】

また、本発明の請求項4に係るドア開閉装置は、上記請求項1において、車体の振動を検出する振動センサを車体に備え、前記判定手段が、振動センサに入力がなかった場合に閉塞操作されたものであると判定することを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下に添付図面を参照して、本発明に係るドア開閉装置の好適な実施の形態を詳細に説明する。なお、図1は本発明の実施形態であるドア開閉装置を適用する自動車の外観図、図2は実施の形態に係るドア開閉装置の外観図、図3は図2に示したドア開閉装置の正面図、図4は図2に示したドア開閉装置の側面図、図5は図3に示したクラッチの縦断面図、図6は図1に示したドア開閉装置のプロック図、図7はクラッチの作用を説明する図、図8は図2に示したドア開閉装置の作用を説明するフローチャートである。

【0011】

ドア開閉装置7は、自動車の車体1と、車体1に形成した開口部1aを閉塞するドア2との間に取り付けて、ドア2を開閉操作するものである。たとえば、テールゲート、サイドゲート等の自動車の開口部を閉塞するドア2に適用するものである。ここでは、テールゲート、即ち、自動車の後方に形成した開口部、を開塞操作するドアに適用するドア開閉装置を例に説明する。なお、テールゲートに適用するドア開閉装置7は単独で使用するものではなく、車体1とドア2との間に取り付けたダンパー（図示せず）と、ドア開閉装置7により閉塞操作したドア2を閉め込むクローザ8とともに使用する。ダンパーはドア2の開放状態でドア2の自重を支え、軽やかにドア2の開閉操作を行う機能を有し、クローザ8はド

ア開閉装置 7 が閉塞操作したドア 2 を全閉状態にする機能を有する。

【0012】

図3及び図4に示すように、ドア開閉装置 7 は、駆動手段 20 と、ドア開閉機構 40 と、駆動手段 20 とドア開閉機構 40 との間に介在したクラッチ 30 とを有している。

【0013】

駆動手段 20 は、モータ 21 と、モータ 21 の出力軸 21a に取り付けたウォームギア 22 と、ウォームギア 22 とかみ合うウォームホイル 23 とから構成しており、モータ 21 の駆動をウォームギア 22 、ウォームホイル 23 の順に伝達する。

【0014】

図5に示すように、クラッチ 30 は、ハウジング 31 と、ハウジング 31 に回転可能に支承した入力軸 32 と出力軸 33 とを備えている。なお、入力軸 32 と出力軸 33 とは同一軸となる様でハウジング 31 に支承してある。

【0015】

ハウジング 31 には、入力軸 32 を回転可能に支承するベアリング 34 と、出力軸 33 を回転可能に支承するベアリング 35 と、電磁コイル 36 とを取り付けである。

【0016】

入力軸 32 においてハウジング 31 の外部には、ウォームホイル 23 が取り付けてあり、入力軸 32 においてハウジング 31 の内部には駆動ディスク 32a を一体に形成してある。また、駆動ディスク 32a の出力軸 33 側の面には山形形状の歯 32b を形成してある。

【0017】

出力軸 33 においてハウジング 31 の内部には、駆動ディスク 32a と対向する従動ディスク 33a を一体に形成してある。また、従動ディスク 33a の駆動ディスク 32a に対向する面には、駆動ディスク 32a の歯 32b とかみ合う山形形状の歯 33b を形成してある。一方、従動ディスク 33a の駆動ディスク 32a と対向する面と反対側の面には鋸歯状の歯 33c を形成してある。鋸歯状の

歯33cは、周方向に直角に形成した面と、直角に形成した面と面とをつなぐ周方向に鋭角な角度を有する面とから形成してある。駆動ディスク32aと従動ディスク33aとの間には、従動ディスク33aを駆動ディスク32aから離反する方向に付勢する圧縮コイルバネ37を間挿してある。

【0018】

ハウジング31には、従動ディスク33aと対向するブレーキディスク38が取り付けてある。ブレーキディスク38の従動ディスク33aと対向する面には従動ディスク33aに形成した歯33cとかみ合う鋸歯状の歯38aを形成している。鋸歯状の歯38aは、従動ディスク33aに形成した歯33cと同様に、周方向に直角に形成した面と、直角に形成した面と面とを接続する周方向に鋭角な角度を有する面とから形成してある。したがって、従動ディスク33aとブレーキディスク38が接合すると、従動ディスク33aの歯33cの周方向に直角に形成した面とブレーキディスク38の歯38aの周方向に直角に形成した面とが当接する方向に従動ディスク33aの回転を不能にし、従動ディスク33aの歯33cの周方向に直角に形成した面とブレーキディスク38の歯38aの周方向に直角に形成した面とが離反する方向に従動ディスク33aの回転を許容する。

【0019】

このため、クラッチ30は、通電時に駆動手段20からドア開閉機構40への動力を伝達する一方、無通電時に駆動手段20からドア開閉機構40への動力の伝達を遮断する。また、クラッチ30は無通電時にドア2の開放方向にはドア開閉機構40を制動し、かつ、ドア2の閉塞方向にはドア開閉機構40の作動を許容する。したがって、無通電状態でドア2を任意の位置に停めることができ、ドア2に力を加えることにより、閉塞方向にドア2を閉めることができる。

【0020】

ドア開閉機構40は、クラッチ30の出力軸に取り付けたギア41と、ギア41とかみ合うギア列42と、ギア列42の出力軸と同軸に取り付けた回動アーム45と、回動アーム45に連結した引き込みアーム46とから構成しており、駆動手段20からクラッチ30を経由して伝達された駆動によりドア2を開閉操作

できる。

【0021】

ドア開閉装置7は制御装置6に接続されている。また、制御装置6には、ドア開閉スイッチ3と、位置検出スイッチ4と、静電スイッチ5と、クローザ8とを接続してある。

【0022】

ドア開閉スイッチ3は、たとえば、運転席の近くに配置したドライバースイッチ、オープンハンドル近傍に配置したオープンハンドルスイッチ、自動車のカギに内蔵したキーレススイッチ、テールゲートの内側側部に配置したゲートスイッチであり、スイッチのオン時間の長短により閉塞命令と開放命令とを切り分けている。たとえば、ドア開閉スイッチ3を一回押した場合にはドア2の閉塞命令であると判断し、ドア開閉スイッチ3を長押しした場合にはドア2の開放命令であると判断する。また、ドア2の開放途中又は閉塞途中でドア開閉スイッチ3を押下した場合には、ドア2の開放停止命令又は閉塞停止命令と判断する。なお、オープンハンドルスイッチからの入力はスイッチのオン時間の長短に関係なくドア2の開放命令と判断し、ゲートスイッチからの入力はスイッチのオン時間の長短に関係なくドア2の閉塞命令と判断する。

【0023】

位置検出スイッチ4は、ドア位置を検出するものであり、全閉位置から全開位置までのどの位置にドア2があるか検出する。たとえば、ドア開閉機構40のギア列42のうち、大径のギアを選択し、そのギアの回転角度を監視することによりドアの位置を検出する。即ち、大径のギアの周方向に形成した多数のホールを位置検出スイッチ4により監視することによりドア2の位置を検出する。位置検出スイッチ4から入力された信号（パルス信号）のパルス数を制御装置6が数えることによりドア位置を特定する。また、位置検出スイッチ4は、ドア2が閉塞方向に移動した場合にもパルス信号を制御装置6に入力するので、ドア移動検出手段として機能し、制御装置6はドア2の閉塞方向の移動を検出できる。

【0024】

静電スイッチ5は、利用者が触れたことを検出するための接触検出手段として

設けられたものであり、ドア2の下方部のモールを形成している。位置検出スイッチ（ドア移動検出手段）4がドア2の移動を検出し、かつ、静電スイッチ5がオンとなった場合には制御装置6が、そのドア2の移動を利用者により閉塞操作されたものと判断する。

【0025】

クローザ8は、ドア開閉装置7が閉塞操作したドア2をさらに閉め込んで、全閉状態にするものである。即ち、位置検出スイッチ4がドア2の閉塞状態を検出したことを条件にクローザ8を駆動してドア2を全閉状態にする。

【0026】

次に、本発明に係るドア開閉装置7の作用について説明する。ドア開閉スイッチ3によりドア2の開放命令を入力すると、電磁コイル36に電力を供給し通電状態となる。通電状態では、図7（a）に示すように、従動ディスク33aは圧縮コイルバネ37の付勢力に抗して駆動ディスク32aと接合し、従動ディスク33aとブレーキディスク38とが離反する。このとき、駆動ディスク32aの歯32bと従動ディスク33aの歯33bがかみ合う。そして、モータ21の回転をドア開閉機構40に伝達し、ドア2を徐々に開放操作する。ドア2の開放途中でドア開放停止命令を入力すると、モータ21と電磁コイル36に電力の供給を停止し、無通電状態となる。この結果、ドア2は開放途中で停止する。ドア2の開放途中でドア2の開放停止信号を入力しない場合には、ドア2の全開位置でモータ21と電磁コイル36に電力の供給を停止し、無通電状態となる。

【0027】

無通電状態でドア2が開放途中又は全開位置にある場合には、（b）に示すように、圧縮コイルバネ37の付勢力により駆動ディスク32aと従動ディスク33aとが離反し、従動ディスク33aとブレーキディスク38とが接合する。このとき、従動ディスク33aの歯33cとブレーキディスク38の歯38aとがかみ合うので、従動ディスク33aの回転を不能にする。但し、従動ディスク33aの歯33bはブレーキディスク38の歯38aを乗り越えて回転できるので、従動ディスク33aの回転を一方向（ドア2の閉塞方向）にのみ許容する。即ち、この場合にはドア2は任意の位置で停止するが、ドア2に力を加えるとドア

2を閉塞操作できる。

【0028】

上述した状態からドア2の閉鎖命令を入力すると、電磁コイル36に電力が供給されて通電状態となる。通電状態では、図7(a)に示すように、従動ディスク33aは圧縮コイルバネ37の付勢力に抗して駆動ディスク32aと接合し、従動ディスク33aとブレーキディスク38とが離反する。このとき、駆動ディスク32aの歯32bと従動ディスク33aの歯33bがかみ合う。そして、モータ21の回転をドア開閉機構40に伝達しドア2を徐々に閉塞操作する。ドア2の閉塞途中でドア2の閉塞停止命令を入力するとモータ21と電磁コイル36に電力の供給を停止し、無通電状態となる。この結果、ドア2は閉塞途中で停止する。ドア2の閉塞途中でドア2の閉塞停止命令を入力しない場合には、ドア2の全閉位置でモータ21と電磁コイル36に電力の供給を停止し、無通電状態となる。

【0029】

無通電状態でドア2が閉塞途中にある場合には、図7(b)に示すように、ドア2が開放途中又は全開位置にある場合と同様、圧縮コイルバネ37の付勢力により駆動ディスク32aと従動ディスク33aとが離反し、従動ディスク33aとブレーキディスク38とが接合する。このとき、従動ディスク33aの歯33cとブレーキディスク38の歯38aとがかみ合うので、従動ディスク33aの回転を不能にする。但し、従動ディスク33aの歯33bはブレーキディスク38の歯38aを乗り越えて回転できるので、従動ディスク33aの回転を一方向(ドア2の閉塞方向)にのみ許容する。即ち、この場合にはドア2は任意の位置で停止するが、ドア2に力を加えるとドア2を閉塞操作できる。

【0030】

ドア2が開放されている場合、即ち、ドア2が開放途中にある場合、ドア2が閉塞途中にある場合、ドア2が全開位置にある場合、には図8に示すように、ドア2の静電スイッチ5を取り付けた部分を押さえると、ドア2は閉塞方向に移動する。ドア2が閉塞方向に移動すると、制御装置6が位置検出スイッチ4から入力されたパルスを数え始める。制御装置6に所定数のパルスが入力されると(ス

ステップS1：YES）、静電スイッチ5がオン状態にあるか否かを確認する（ステップS2）。静電スイッチ5を取り付けた部分を押さえているので、静電スイッチ5はオン状態にあり（ステップS2：YES）、制御装置6はドア2の移動が利用者のドア2の閉塞操作によるものであると判定する。すると、ドア開閉装置7がドア2を閉塞操作する（ステップS3）。

【0031】

なお、ドア2が開放操作されているときに何らかの理由によりドア2が閉塞方向に移動しても、人間が静電スイッチ5に触れていない限り、ドア2が勝手に閉まる事はない。たとえば、車内で子供が飛び跳ねてドア2が閉塞方向に移動しても（ステップS1：YES）、静電スイッチ5はオフ状態にあるので（ステップS2：NO）、制御装置6はドア2の移動が利用者のドア2の閉塞操作によるものではないと判定する。このため、ドア開閉装置7がドア2を勝手に閉塞操作することはない。

【0032】

なお、本発明の実施の形態に係るドア開閉装置7は、テールゲートを閉塞操作するドア2に適用が限定されるものではなく、サイドゲートを閉塞操作するスライドドア等にも適用できる。

【0033】

また、位置検出スイッチ4は、ドア開閉機構40のギア列のうち大径のギアの回動角度を検出することによりドア位置を特定しているが、ドア2を支承するヒンジ部分の回動角度を検出することによりドア位置を特定するものとしても良い。また、ダンパーの伸縮を検出することによりドア位置を特定するものとしても良い。

【0034】

また、ドア開閉装置7は、静電スイッチ5の入力に基づいて、ドア2の移動が利用者により閉塞操作されたものであるか否かを判定するが、静電スイッチ5の代わりに温感スイッチを取り付けて、温感スイッチの入力に基づいてドア2の移動が利用者により閉塞操作されたものであるか否かを判定しても良い。

【0035】

また、静電スイッチ5の代わりに車体1に振動センサ（図示せず）を取り付けて、振動センサの入力の有無に基づいてドア2の移動が人為的なものであるか否かを判定しても良い。なお、この場合には、振動センサから入力がなかったことを条件に、制御装置6がドア2の移動を利用者により閉塞操作されたものであると判定する。

【0036】

以上説明したように、本発明の実施の形態に係るドア開閉装置7によれば、静電スイッチ5の入力の有無、又は振動センサの入力の有無に基づいて、ドア2の閉塞方向の移動が利用者により閉塞操作されたものであるか判定するので、意図しない場合にドア2が勝手に閉塞操作することはない。

【0037】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の請求項1～4に係るドア開閉装置は、ドアの移動を検出するドア移動検出手段と、ドアの移動が閉塞操作されたものであるか否かを判定する判定手段とを備え、ドア移動検出手段がドアの移動を検出し、判定手段がそのドアの移動を閉塞操作されたものであると判定した場合にドアを閉塞操作するので、車体の振動によってドアが閉塞操作することがなく、利用者に無用の混乱を生じせしめない。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施形態であるドア開閉装置を適用する自動車の概観図である。

【図2】

本発明の実施形態に係るドア開閉装置の外観図である。

【図3】

図2に示したドア開閉装置の正面図である。

【図4】

図2に示したドア開閉装置の側面図である。

【図5】

図3に示したクラッチの縦断面図である。

【図6】

図2に示したドア開閉ユニットのブロック図である。

【図7】

クラッチの作用を説明する図であって、(a)は通電状態を示した断面図、(b)は無通電状態を示した断面図である。

【図8】

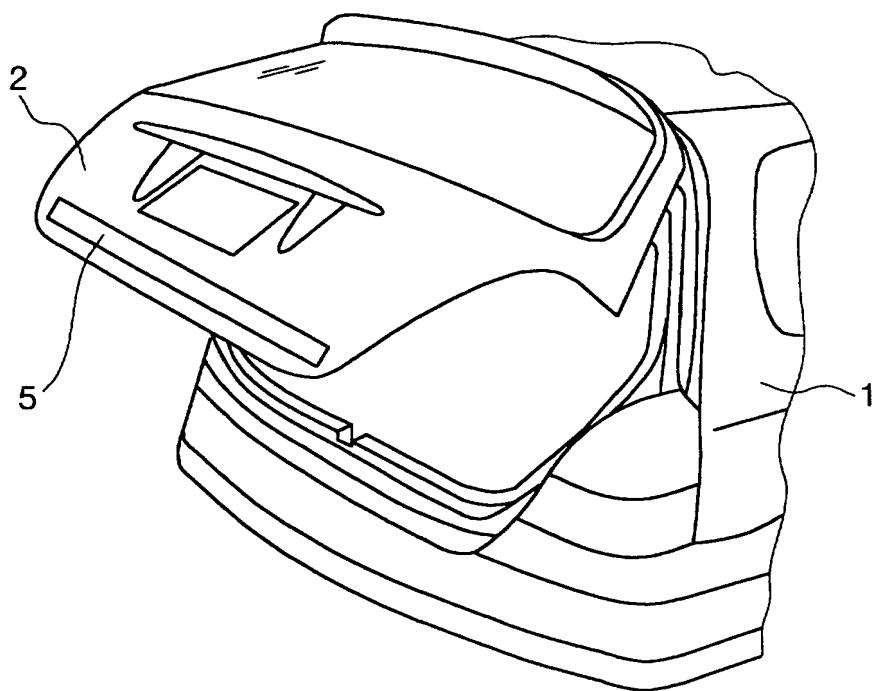
図2に示したドア開閉装置の作用を説明するフローチャートである。

【符号の説明】

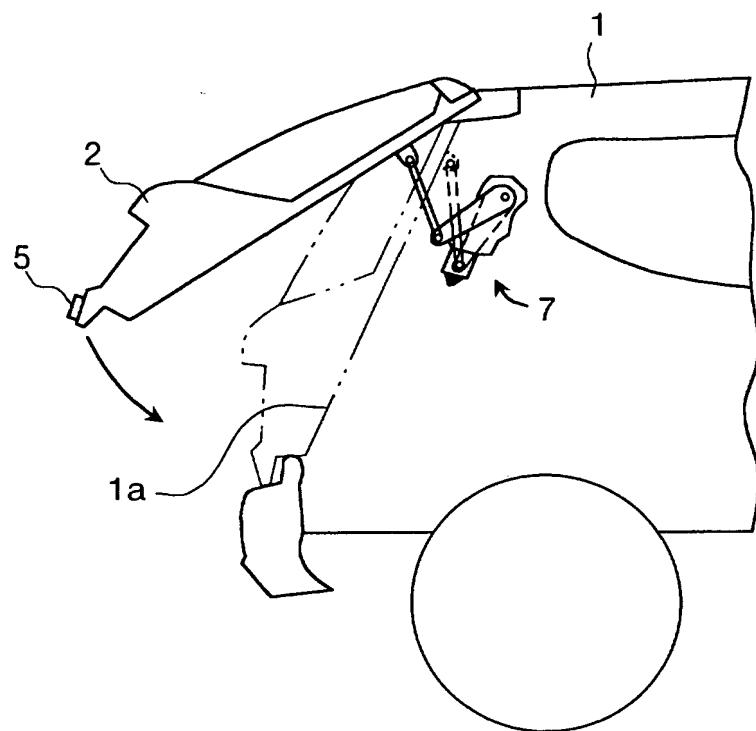
1	車体
2	ドア
3	ドア開閉スイッチ
4	位置検出スイッチ
5	静電スイッチ
6	制御装置
7	ドア開閉装置
8	クローザ
2 1	モータ
3 0	クラッチ

【書類名】 図面

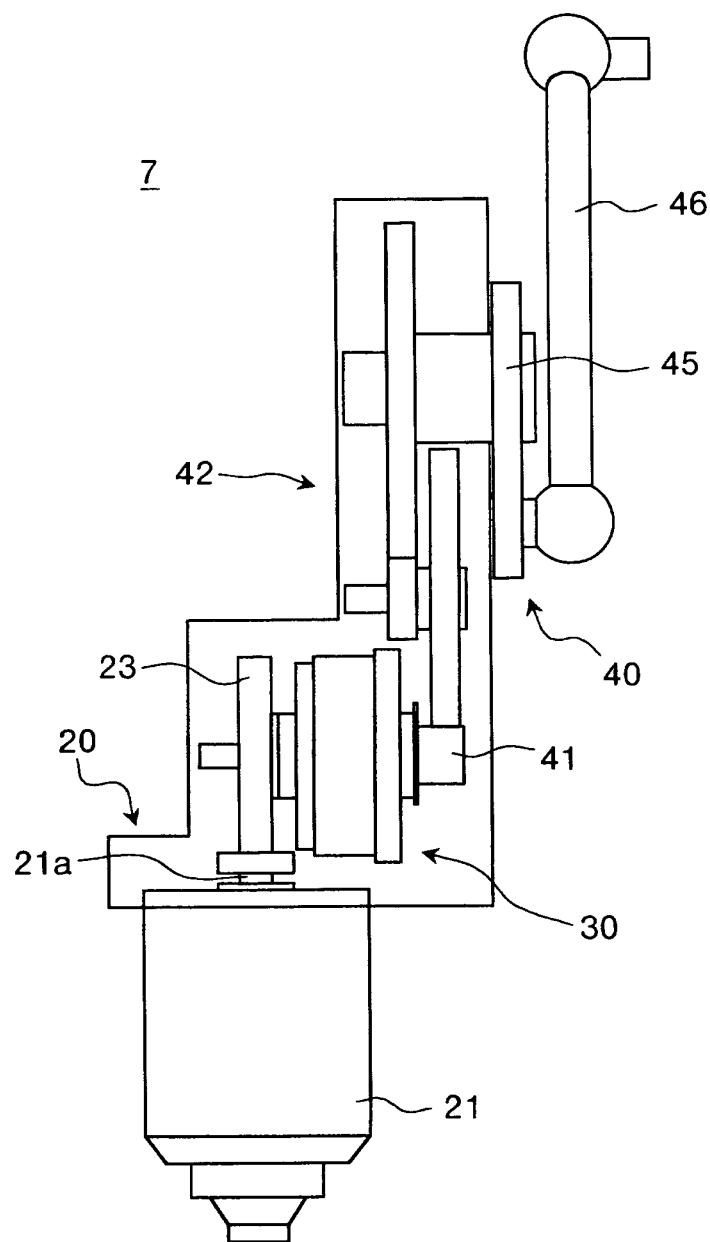
【図 1】



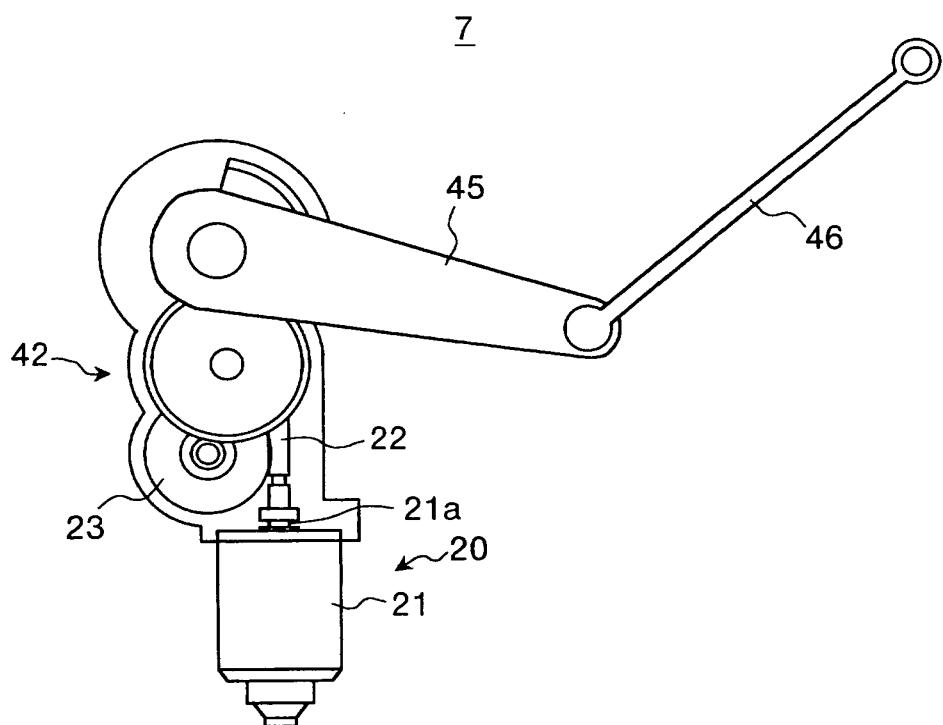
【図2】



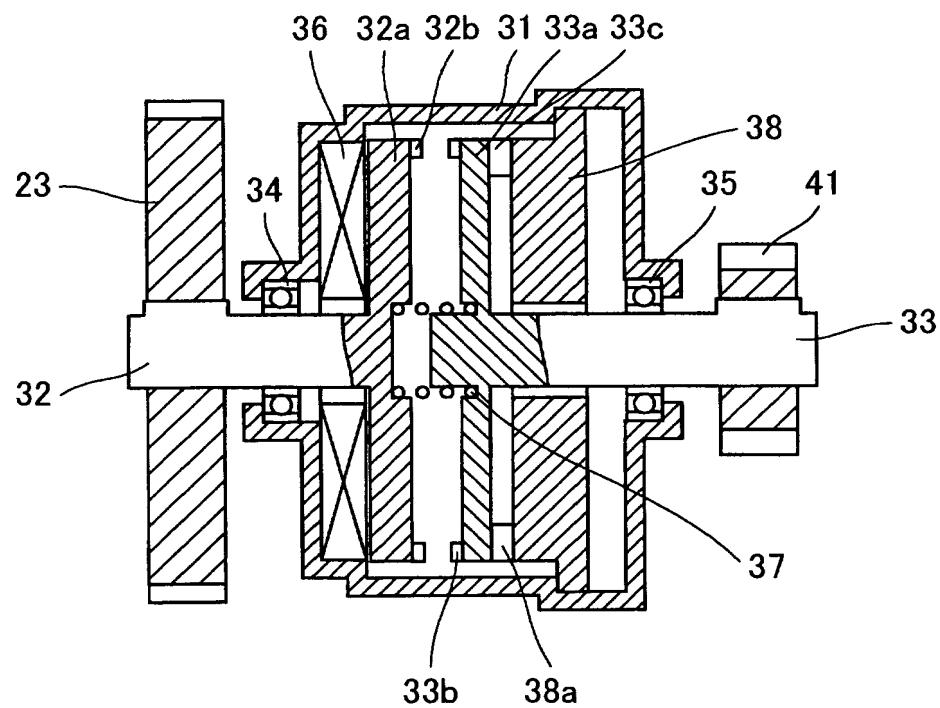
【図3】



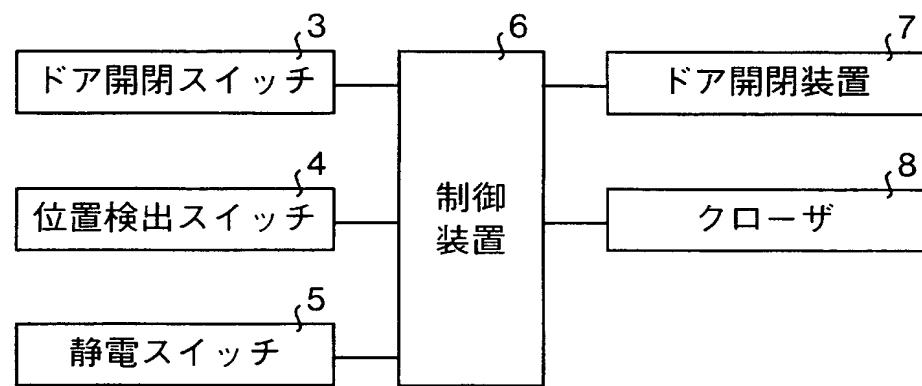
【図4】



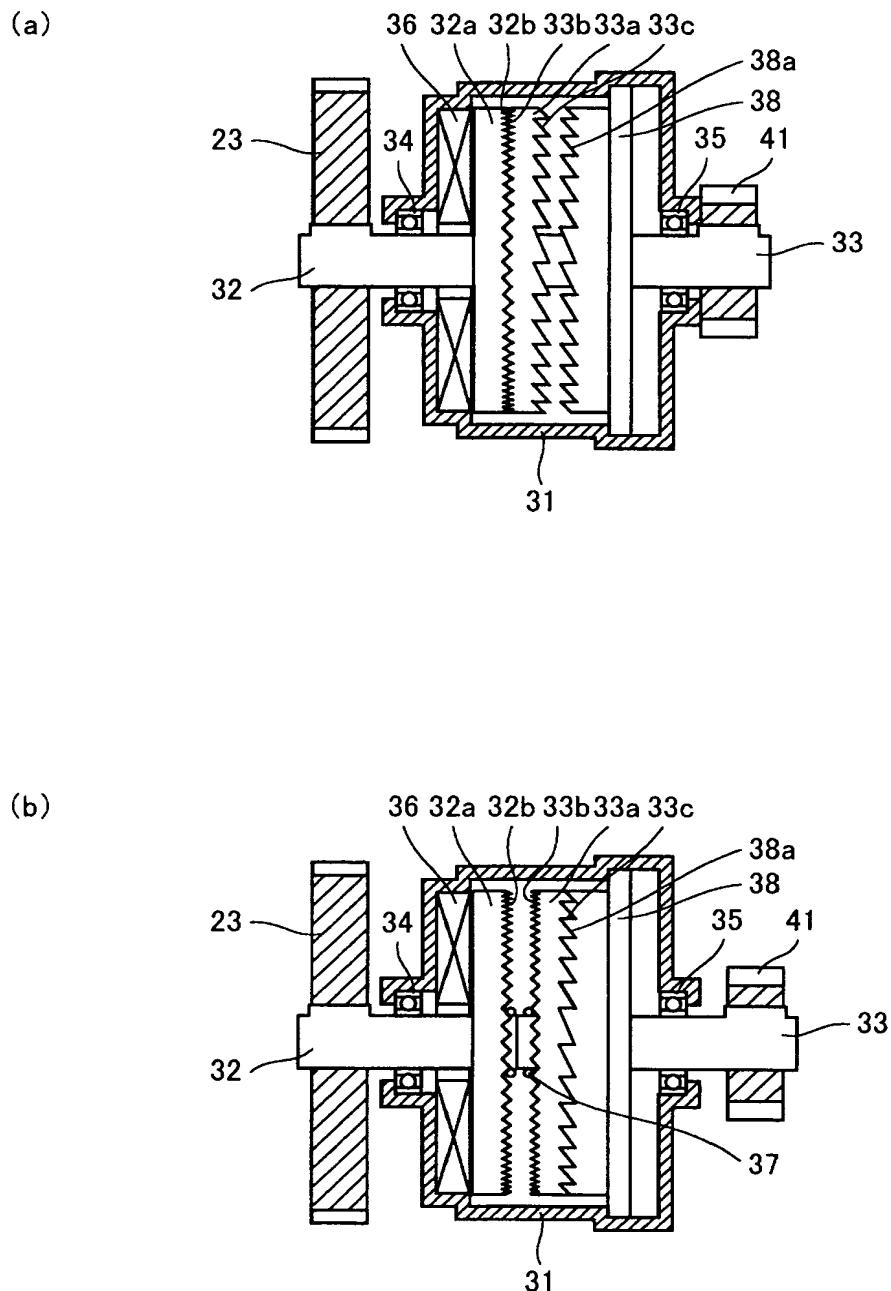
【図5】



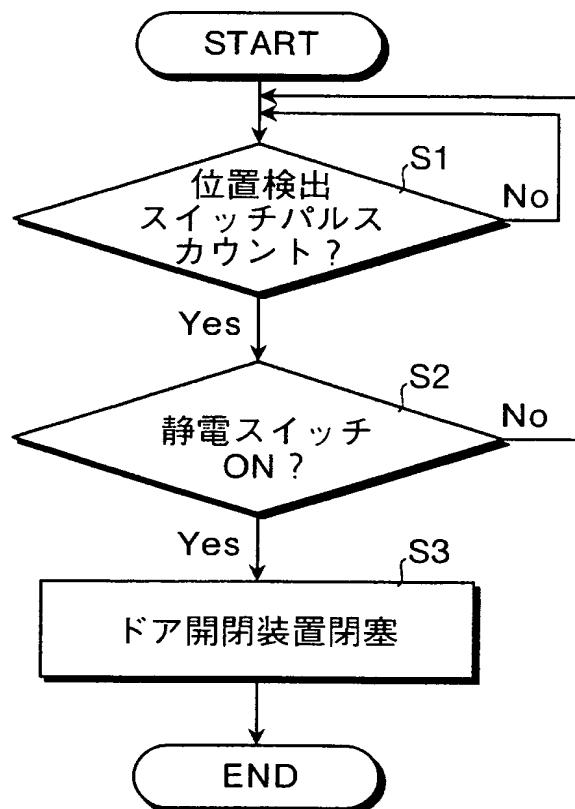
【図6】



【図7】



【図8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 利用者の意図した場合にのみドアを閉塞操作するドア開閉装置を提供すること。

【解決手段】 車体の開口部を開閉可能に設けたドアと、ドアが開放状態にある場合に閉塞方向に駆動する駆動手段とを備えたドア開閉装置において、ドアの移動を検出するドア移動検出手段と、ドアに取り付けて人間が触れたことを検出する静電スイッチと、ドアの移動が人為的なものであるか否かを判定する判定手段とを備え、ドア移動検出手段がドアの移動を検出し、かつ、静電スイッチ5に入力があった場合に判定手段がそのドアの移動を人為的なものであると判定し、駆動手段を稼動してドアを閉塞操作するようにした。

【選択図】 図8

特願2002-264719

出願人履歴情報

識別番号 [000006183]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号
氏 名 三井金属鉱業株式会社

2. 変更年月日 1999年 1月12日
[変更理由] 住所変更
住 所 東京都品川区大崎1丁目11番1号
氏 名 三井金属鉱業株式会社